



徳嶺勝信

12月のベトナム南部ホーチミンは乾期に入る。11月から翌年5月までが乾期の時期だ。雨期と乾期の昼間の気温はあまり変わらないが、朝夕の涼しさと日中の日差しの違いで乾期に入った事を実感する。日差しは紫外線の影響なのか乾期が強い。

ホーチミン市に初めて来た外国人がまず驚くのはバイクの多さだ。空港から市内までの道のりを歓声をあげながら見ている。反対車線に堂々とみ出したバイクや自動車、さらには歩道にも乗り上げ、バイクが走る。特に朝夕のラッシュ時の光景はすごい。

経済発展とともに車の数も増え、ますます道路事情は悪化している。ベトナム政府も自動車を簡単に購入できないように税金や自動車登録費用、ナンバープレート費用などを高額に対応している。その費用は自動車本体価格の1.5〜3倍ほどになるが、それでも自動車販売台数は前年度の約2倍のペースで推移している。

ホーチミン市の交通インフラを

地下鉄導入で発展期待

ベトナム

改善するために地下鉄（一部は高架橋）の工事が始まっている。ホーチミン市内で地下鉄8路線に加え、地下鉄に付随するモノレール工事が2020年から順次、完成し運行していく。

地下鉄1号線は日本の政府開発援助（ODA）事業で行われている。地下鉄工事をはじめホーチミンでは、中心地での大規模開発や、駅の沿線上の小規模開発が計画されている。

海外からの視察団を案内する際、「ホーチミン市の開発の推移が20年前の上海ととても似ている」とよく言われる。その当時の上海では鉄道インフラ工事計画の中で駅の設置場所が田んぼの真ん中に位置していることも多く、民間からは電車が運行しても誰も利用しないと後ろ向きな発言ばかりだったそう。

ところが20年後の今では、当たり前のように電車を使用している。田んぼだった地域は商業ビルを中心とした複合施設などの開発が進み、マンションは億単位に値上がりしている。単純に比較できないが、ホーチミン市の発展もまだまだ見込めると予想している。

地下鉄の運行が始まりホーチミン市の交通事情が劇的に改善されることを期待したい。

（ベトナムJES代表）

次回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。